

第16回 SGRA カフェ

安全であること

—環境と感覚、ジェンダー、人種、セクシュアリティから考える—

プログラム

主 催	渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA)
日 時	2021年7月17日(土) 15:00~16:30
開催方法	会場(定員20名)とオンライン(Zoom)開催
会 場	Impact Hub Kyoto 〒602-8061 京都市上京区油小路中立売西入ル甲斐守町97番地 西陣産業創造會館(旧西陣電話局)2階・3階 TEL: 075-417-0115 https://kyoto.impacthub.net/access/
言 語	日本語
参加費	無料
参加申込	下記リンクまたはQRコードからお申込みください https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_4VHnLNp6TU6FHQm01Bvnlq
お問い合わせ	SGRA事務局にE-mailでお問い合わせください sgra@aisf.or.jp フォーラム中の技術トラブルはZoomのチャット機能でご連絡ください
概 要	<p>日本社会は「安全」だと言われているが、「安全」であるということは何を指しているのだろうか？本イベントでは、様々な立場や視点から「安全」の意味および基準を考え直し、社会的な構造・環境と、その構造が個人に及ぼす影響について対談する。コロナ時代となった現在は社会格差が広がり、弱い立場にいる人たちがより危険な状況に陥りやすくなっている。ジェンダーや人種、セクシュアリティなど、様々な視点と立場から安全および社会における差別・不平等について話し合う。できるだけ多くの人々にとってより安全な社会をつくるために、自分は何ができるのか？自分にとって安全な場所を見つけるために何をすればいいのか？身近な問題から社会的な構造まで、安全について考えてみよう。</p> <p>性暴力被害者の支援をしている中島氏やBLM活動をしているジャクソン氏、シェルター運営者など、さまざまな視点から安全について話し合う。本イベントの目的は、日本にいる人々の経験を知り、「知る」ことから活動につなぐことである。「安全」という単純に思われている概念を考え直し、自分は本当に「安全」と感じているかということ、参加者に考えてもらいたい。自分のまわりを安全にするため、もっと安全な環境を見つけるためにはどうすればいいのか、という実践的な話にまでつなぎたい。</p> <p>会場とオンライン方式の同時開催で、質問はトークの中で受け付ける。東京の渥美財団ホールともオンラインでつなぎ、渥美奨学生有志がディスカッションに参加する。</p>
登壇者	司会/モデレーター：ソイヤ・デール スピーカー：中島幸子、キナ・ジャクソン、いくのがくえんスタッフ Q&A サポート：イザベル・ファスベンダー

プログラム	15:00	開会
	15:00	SGRA の紹介
	15:05～15:35	スピーカーの自己紹介、問題提起
	15:35～16:20	ディスカッション（参加者との質疑応答を含む）
	16:20	まとめ
	16:30	終了予定

登壇者プロフィール：



中島幸子（NPO 法人レジリエンス）

NPO 法人レジリエンス代表、米国法学博士、大学非常勤講師。

DV 被害にあった経験がきっかけとなり勉強を始め、2003 年に女性のための「こころの care 講座」をスタートさせ、「レジリエンス」を結成。同年、米国ソーシャルワーク修士号取得。全国各地で毎年多数の講演を行う。主な著書に、「性暴力：その後を生きる」（レジリエンス、2011）、「マイ・レジリエンス：トラウマとともに生きる」（梨の木舎、2013）や共著に「傷ついたあなたへ＜1＞、＜2＞」（梨の木舎、2005、2010）、共訳に「DV・虐待加害者の実体を知る」（L.バンクロフト著、明石書店）などがある。



キナ・ジャクソン Kina Jackson（BLM 関西、Black Women in Japan）

フィラデルフィア地域出身、大阪在住歴は 18 年。ペンシルバニア州立大学卒。関西外国語大学の交換留学生として来日。翻訳者およびコンサルタントとして、レストラン・ビジネス・アート・NPO 等のクライアントをサポートし、社会貢献とビジネス分野を融合している。積極的にコミュニティを構築し、BWIJ ブラック・ウィミン・イン・ジャパン、BLM Kansai のプランニングチーム、Afrika Meets Kansai プラットフォームのチームメンバー、NPO 法人 AfrikClean のリエゾン等、関西の社会貢献活動に取り組んでいる。社会変革活動、ポジティブなコミュニティの構築、ネットワークを用いたクライアントの顧客基盤の多様化に貢献。



NPO 法人いくのがくえんスタッフ

大阪にある認定 NPO 法人いくの学園は、DV や虐待など暴力から避難したい人のためのシェルターと電話相談を行っている。地域が必要とする支援を、その地域の人びとを中心に力を合わせてみんなでかたちにしていくことを目指しており、性別や国籍、言語、障がい、セクシュアリティ等々、利用者も職員も多様である。

ソンヤ・デール Sonja Dale（SGRA 関西）

ウォリック大学哲学部学士、オーフス大学ヨーロッパ・スタディーズ修士を経て上智大学グローバル・スタディーズ研究科にて博士号取得。これまで一橋大学専任講師、上智大学・東海大学等非常勤講師を担当。ジェンダー・セクシュアリティ、クィア理論、社会的なマイノリティおよび社会的な排除のプロセスなどについて研究。2012 年度渥美財団奨学生。

イザベル・ファスベンダー Isabel Fassbender（同志社女子大学）

ランツフト（ドイツ）出身。東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士。研究テーマは「産むこと」をめぐるポリテクスー日本の少子化社会におけるファミリープランニングをめぐる言説の分析。渥美国際交流財団 2017 年度奨学生。